

平成 25 年 3 月 4 日(月) 大阪府立大学 学術交流会館

合同フォーラム みんなでつくろう明日の人材「今、社会で求められている人材とは？」

14 大学共同学生プロジェクト

学生の本音

～自分で掴む未来～

報告書

大阪工業大学 工学部 環境工学科 2 回生

全体リーダー 副田正樹

1. 参加者数

今回の学生企画の参加者数は合計 92 名であった。

学生企画参加人数

学生リーダー会	25 名
一般学生 (芦屋大学、大阪工業大学、大阪音楽大学、関西外国語大学、大阪成蹊大学、和歌山大学、大阪府立大学、追手門学院大学、大手前大学、帝塚山学院大学、神戸学院大学大阪大学、大阪教育大学)	46 名
社会人	21 名
合計	92 名

2. 各テーブルが行き着いた結論のまとめ

- 1 班 担当：日下秀文 「産業界」
- 2 班 担当：副田正樹 「大学に行く理由」
- 3 班 担当：岡田健汰 「男女共同参画社会」
- 4 班 担当：池田留巳 「社会に対する不満 または 大学生と社会とのギャップ」
- 5 班 担当：下村健太 「産業界」
- 6 班 担当：三谷晴佳 「大学に行く理由」
- 7 班 担当：安里いずみ 「男女共同参画社会」
- 8 班 担当：平 彩乃 「社会に対する不満 または 大学生と社会とのギャップ」

○1班 担当：日下秀文

① テーマ：産業界

② 参加者の人数

学生：6名 社会人：4名 ファシリテーターを含め合計11名

③ ディスカッション結果

- ・産業界は人財が支えており、その人財は実学と体験を通して成長する。

④ ディスカッションの過程

- ・産業界とは？

モノを作り、人財を作る世界であり、お金をまっとうに稼ぐ世界である。

- ・その産業界が求める人財は？

即戦力となる人財である。

- ・即戦力となる人財はどういった人財か？

コミュニケーション能力持つ人財。

- ・コミュニケーション能力とは？

相手の事を思いやり、相手が伝えたいことを理解出来る能力である。

- ・その能力はどうやって伸ばすのか。

その能力は、幼少の頃から、体験を通し、思考させることによって伸ばすことが出来る。

⑤ 感想

ファシリテーターとして考えていたこのテーマの終着点は、産業界が求める人財とは？
いかにそのような人財を増やせるのか？を終着点として考えていました。

その終着点の発展として、人として、人に対する思いやりの重要性を議論したいと思っていました。

その自分が考えていた終着点に向かって、今回のディスカッションはうまく進んでくれました。これはディスカッションに参加してくれていたメンバーの方々に恵まれ、助けていただいた結果です。

結果が良くとも悪くとも、貴重な経験を楽しむことが出来て良かったです。

学生の中にこのような経験をリーダー会のメンバーの方々と共に積めて良かったです。

⑥ 反省点

- ・緊張を克服することが出来ていませんでした。

口の渇きを感じる前に、飴等を口に含んで、口の渇きを防ぐべきでした。

- ・大人数に対して、皆さんに意見を仰ぐことができませんでした。

目配りと気配りにもっと力を注ぐべきでした。

- ・長くお話している方を止めることができませんでした。

お話の途中であっても、こちらでそのお話をまとめさせていただいて、議論を進めるべき

でした。

- ・模造紙に書いてまとめるのに時間がかかりすぎた。

議論の始めから、模造紙を広げ、議論の過程と議論の結果を模造紙に書いてもらうべきでした。

- ・他のテーブルとの声が混ざってしまい、聞こえにくい。

この点に関しては、リハーサルの際に実験しておくべきでした。

○2班 担当：副田正樹

①テーマ

大学に行く理由

②参加者の人数

学生：2名 社会人(すべて大学教員)：3名 ファシリテーターを含め合計6名

③ディスカッション結果

大学に行く理由は教養を身に付け、さらに専門知識も深めることができるからである。

④ディスカッションの内容

Q.皆さんの大学に行く理由とは？

社会人：周りが行っていたから行くのが当然だった。

学生：大学でやりたいことがあった。

Q.何か大学生生活で不満に思うことがあるか？

学生：特にはない。

Q.授業については何かないか？

学生：つまらない授業は携帯を触っていたり、寝てたり、私語などしてしまっている。

社会人：今、自分が大学生ならつまらない授業は寝ていたかも。また、「今日こそは何か為になることを教えてくれるはずだ」ととりあえず聞いていただろう。

Q.教員志望の君たちはこの授業の現状についてどう思う？(社会人から学生への質問)

学生：先生方には申し訳ないなと思っている。

社会人：じゃあ、何か授業改善のためのアイデアを教員希望の君たちから持って来て欲しいな。

Q.そもそもなぜ専門学校じゃなくて大学を選んだの？(社会人から学生への質問)

学生：専門学校の2年という期間では正直短か過ぎて自分がこなせるかどうか不安だったから。また、大学なら1,2年で教養を身に付けその後に専門知識も身に付けられ

るのでしっかりとした土台が作れると思った。

⑤感想

社会人と現代の学生が考える大学に行く理由に違いが見られた。社会人はただ何となく、みんなが行くからなど特に目標ややりたいことがあったわけでは無かったという意見が多かった。一方、現代の学生は目標があり、大学でやりたいことはっきりさせているという意見だった。この違いに時代背景などがありそうで興味深かった。また、先生という立場から教員志望の学生に授業改善について意見を求めた場面について、本音のぶつかり合いがあつて面白い討論が交わされた。

まとめると、社会人と学生が心理的にとても近い距離で話し合えたことはとても良い機会になったと思う。お互いに本音をぶつけあい中身のあるディスカッションであつた。

⑥反省点

ファシリテーターとしてディスカッションに参加してくださった方の意見をうまく掘り下げることができなかつた。それだけの知見を持ち合わせていなかった。テーマについてもっとしっかり勉強すべきだったと感じた。

○3班 担当：岡田健汰

テーマ：男女共同参画

参加人数：学生：4名、社会人：2名、ファシリテーターを含め合計7名

結論

制度としては男女差別がない体制がある。

だが実際はそういった制度があつてもきちんとした環境が整っていない。

例えば育児休暇に関しては女性が取るのは問題ないが、男性が取るとなるとどこか取りにくい雰囲気がある。

こういった問題にどう向き合っていくか！

- 1.男性、女性関係なく「思いやり」の心を持つこと。
- 2.国が会社に対してもっときちんとした制度を徹底し、会社は良い雰囲気作りに徹底する。この二つである。

・感想

今までファシリテーターという仕事をさせてもらうことが一度もなかったのもとても貴重

な経験になりました。今まで自分の意見を積極的に言ってディスカッションをすることはあっても、進行役として色々な人の意見をうまくまとめ、進行させていくという立場にはたったことがありませんでした。だからこそ話し方や手順などを改めて考えることが出来たのでよかったです。

・反省点

一人ひとりの意見を深く聞いて、何を伝えたいかということをもっと理解してあげたかった。そして全体発表の時に発表者が余裕を持って話せるほどの内容を全員で考え、うまくまとめてから送り出してあげたかった。

○4班 担当：池田留巳

テーマ：「社会に対する不満 または 大学生と社会とのギャップ」

参加者：学生 5 名、社会人 2 名、ファシリテーターを含め合計 8 名

・結果

私の担当させていただいたテーブルでは、大きくわけて次の 2 点にまとめられました。

①コミュニケーションに関するギャップ

参加していただいた社会人の方 2 名が大学関係者、教育に携わっている方々だったということもあり、学生に海外留学等、海外に積極的に出て様々なことを学んでほしいという声が出ました。

それに対し学生からは、海外に行ってみたい気持ちはあるが、経済的な面や学業の面など様々な側面でハードルが生じるため、海外留学をサポートしてくれるような仕組み・制度づくりを今以上に充実させてほしいという声が出ました。また、語学の面でも、現状の英語教育と実社会の英語にギャップがあり、英語を学んでいても話すことが難しいことから、幼い頃からの英語教育を改めてほしいとの意見が出ました。

これに対して社会人の方からは、コミュニケーション力は、外国語運用能力というよりも、普段から日本語で家族や周りの人と会話ができているならば大丈夫であるという意見が出ました。

このギャップを埋めるために、大学関係者の方々からは(1)大学生が参加しやすい海外留学プログラムの開発を考案する、(2)大学教育を工夫する等が挙げられました。学生からは(1)自ら積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、(2)様々なイベントに参加し、経験豊かな方等からお話しを聞くことによって情報を得る、等が挙げられました。

②政治に対する不信

近年、内閣総理大臣の交代が早いこと等から、日本の政治が国内・国外から信用を得ら

れているのかといった不信の声が出ました。

この不信を改善していくために、(1)一人ひとりが今以上に政治に関心を持ち、自ら未来を考える、(2)情報の正誤性を見極めながら投票に行く、という意見が出ました。

感想と反省点

今回、ファシリテーターとして他の学生や社会人の方々のテーマに対する意見を聞くことができ良い刺激になったとともに、場をまとめながら進行していく役割を担えたことにより、時間配分を考えながら物事を進めていくやりがいや大変さを経験することができた。限られた時間の中で、一人ひとりの発言を促しひとつの方向性に導いていくことは難しさを感じることもあった。具体的には、沢山意見を述べてくださる方に対して、いかに自然に話をきり次の方に発言をしてもらえようにするか、それとは逆にテーマに沿った意見が中々思いつかない方に対して他の方の発言を引用しながら説明することなどである。また、私自身、時間を気にするあまり必死になり一つの意見を深めることが十分にできなかったことは反省点である。しかし、終了後に参加された方々から「ファシリテーターのおかげで話しやすい環境になっていた」との声をいただき非常に嬉しく思ったとともに、一般的にファシリテーターの存在・役割の大切さを再認識するきっかけとなった。

○5班 担当：下村健太

テーマ：産業界

・結論

自分たちが将来やっていきたい仕事は
産業界からはそこまで必要とされていない。

このギャップを埋めていくためには
スポーツ業界や音楽業界など
それぞれの業界でのニーズを把握して
それぞれでギャップを埋めていくことである。

○6班 担当：三谷晴佳

テーマ 「大学へ行く理由」

参加者：学生6名 社会人1名、ファシリテーターを含め合計8名

Q.大学へなぜ行こうと思ったのか？（行っていたのか？）

A. 学生

- ・やりたいことがあったから。
- ・周りが行くから。
- ・推薦で入学できたし、好きなサッカーも続けられるから。
- ・学びたい分野が今通っている大学で学べたから。
- ・一般教養を身につけたかったから。

A. 社会人

- ・第一志望の大学に落ちてしまったため仕方がなく通っていた。

Q.大学へ通い始めて、入る前とのギャップはあったか？（プラスマイナスどちらのギャップも含む）

A. 学生

- ・大学の学力レベルと学生の授業や就職に対する意識のレベルは比例していると感じた。
- ・自分の好きな専門分野を学ぶことができるので楽しい。
- ・高校生のころと違って何でも自ら進んで決めていかなければならないと感じた。
- ・自分が学びたいカリキュラムが、思っていたよりしっかりしていなくて学びたいことが学べていない。

A.社会人

- ・自ら学ぶことが大切と気づいた。

Q.大学に入って感じることは様々だが、それでも専門学校などより大学がよいと感じることはあるか？

A.学生

- ・専門学校よりも、将来の選択肢が多いと感じる。
 - ・専門学校は通う期間が短い、大学は長い、入学前は将来の夢が
 - ・はっきりと決まっていなくても4年間で見つけていくことができる。
 - ・学問以外にも大切なことが学べる。(コミュニケーション能力など)

A. 社会人

- ・大学生活は長いので将来に向けて様々な可能性を見出していける。
- ・学問はもちろんコミュニケーション能力なども身につけられる。

<結果>

- ・大学生活は長いので、入学前に将来の具体的な希望職業などが決まっていなくても、大学生活で見つけていくことができる。

- ・ 学問以外にも社会生活で必要とされること(コミュニケーション能力など)も学ぶことができる。
- ・ 将来の選択肢を多くもてる。

感想

今回ファシリテーターを担当して、まず1番難しいと思ったのは、自分は意見を出さず、周りに意見を出させるようにするという事です。人に意見を言ってもらうことは自分で言うことよりも難しいと感じました。また、全員の意見をまとめて1つの方向性を導き出し、そこに向かって結論を出していくよう促すことも難しかったです。

反省点

おもに私からの質問の投げかけに参加者が答える形になっていて、本当はもっと参加者同士で質疑応答などしあい、議論をかさねてもらいように促していきたく感じています。

○7班 担当：安里いずみ

【テーマ】男女共同参画

参加者数：学生4名、社会人3名、ファシリテーターを含め合計8名

【内容】

1.男女共同参画のイメージをグループのメンバー全員に聞く。付箋に書いて模造紙に貼ってもらった。

・皆さんから出たイメージ

ワークライフバランス、女性の就業の促進、育休・産休の取りづらさ、イクメン、レディースデイなどが挙げられた。

2. 職場内に止まらず、社会について、男女共同参画に対する疑問、不満を、グループのメンバー全員に付箋に書いていただき、模造紙に貼った。

・ご意見

- 「〇〇してはいけない」など、してはいけない事はわかるが、その先の理想は何であるのか、男女平等になった先は何があるのか、つまり方向性が不透明でわかりづらい。
- レディースデイや女性専用車両など、できた経緯には一定の理解はできる。しかし、いわ

ゆる「表面的な女性優遇」に終始する結果となっており、女性が求める平等は何ら実現していない。そして、権利は主張するが責任を取りたがらない女性が増え、結局その不利益を男性側が被る。「女尊男卑」の現象が起こっているのではないか。権利を主張するなら、それに伴う責任は取るべき。

- もう少し、育休や産休に理解を示して欲しい。育児や出産で休まれるのは、人材教育にかける時間やコストの面で迷惑という意見もあるが、その人達は今の少子化をどうするつもりなのか。そういう人材教育のシステムだからこそ、歪みが生じてしまうのではないか。出産や育児で辞めなければならないのであれば、せつかく得た仕事を手放したくないから子どもを持つことを躊躇ってしまう。

- 思いやりは皆持っていると思うが、イマイチどう行動に移したら良いのか分からない人もあると思う。したがって、制度化した方が行動しやすいから作られたものではないのか。

- 男 or 女で分ける前に「人間」として、相手の立場で考えて発言・行動するなど、要は「思いやり」が大切ということだと思う。

3. 理想・どうありたいか

- 「もし、サッカー部のマネージャーが全員男子だったら……？」と考える
- より具体的な政策をつくる
- 思いやりを以て相手に接する

【感想】

やってみたいと立候補したものの、最初はできるかどうか不安だった。下記に述べるけれど反省点もあった。しかし直前の練習の際に、他のファシリの人々の練習を見て、そして自分の係だけでなく他の係も自発的にサポートしていく皆の姿勢を見て、物怖じせずに自分のカラーで、そして来てくださったディスカッション参加者からいかに話を引き出すかという事を考え、結果としてまとまった。他のファシリの人や他の係の人のサポートがあったからできた事、そして何よりもディスカッションに参加してくださった人がいたからこそ、自分を信じてやる事ができた。この経験をさせてくれた皆さんに、とにかく感謝が尽きない。ありがとうございました。

○8班 担当：平彩乃

テーマ：「社会に対する不満、ギャップ」

結論

- ・学生は自分がしたいことはどういうことなのか、それは他人とどう違うかを自覚しそこから目的の成就に必要な努力を見つけ実行していく。要は日々の暮らしを漫然と過ごさず意識して過ごそうという意見が出た。

・社会は学生が学生の中に社会に出て生きていけるたくましさを身につけられるよう大学からではなく小学校からそのための教育をしていくべきという意見が出ました。

3. パネル展示

パネル項目は7つあり、パネルは合計 22 枚使った。

記述式学生の本音（アンケート）の掲載（パネル数 13 枚）

学生に行った学生の本音のアンケート 280 枚を掲載した。

テーマ別にわかりやすくするために用紙を色分けして展示した。

学生の本音にご協力いただいた方の写真の掲載（パネル数 3 枚）

サイズ 写真枚数全 110 枚を掲載した。

就活に関して

現代の就活現状について大学 3・4 回生、社会人 1・2 年目の人にインタビューをおこなったものを参考に資料を作成し紹介した。

～項目内容～

- ・パネルについて趣旨説明
- ・就活生 ・自分の未来を掴んだ 4 回生
- ・掴んだ未来を歩んでいる先輩方～1 年目～
- ・掴んだ未来を歩んでいる先輩方～2 年目～
- ・アンケート

資料を作成し、A1 用紙 2 枚、A3 用紙 5 枚に内容をまとめ展示した。

文系学生紹介

主に理系の学生や社会人の方に文系学生の活動やユニークなゼミの活動など紹介した。また理系学生からの一問一答コーナーも設けた。

～項目内容～

- ・パネルの趣旨説明
- ・ゼミ紹介（文学系、国際・外国語系、法学系、社会系、教育系、経済・商学系）
- ・文系学生に質問

資料を作成し A3 用紙 12 枚に内容をまとめ展示した。

理系学生紹介

主に文系の学生や社会人の方に理系学生の活動や大学の研究から次世代に
実用化されそうな技術などを紹介した。また環境系の学科についても紹介した。

～項目内容～

- ・理系学生の魅力
- ・環境学科ってどんなところ？
- ・ミドリムシを食べる時代がくる！？
- ・液晶の研究でできること
- ・理系の意外な就職先
- ・理系についてのQ&A

資料を作成 A3 用紙 14 枚に内容をまとめ展示した。

音大生の現状

音大生の就職の現状・学生生活など音大生ならではの紹介やアピールを
した。

～項目内容～

- ・音大生の 1 日
- ・音大生の就職

資料を作成模造紙 2 枚に内容をまとめ展示した。

留学生の本音

アメリカのシアトルにいる現地の日本人留学生・学生団体 A C T に対しておこなった
インタビューをもとに紹介して、海外と日本の学生の意識の違いや教育環境などを掲
載した。

- ・パネルの趣旨説明
- ・日本とアメリカの比較 ～社会～
- ・日本とアメリカの比較 ～大学～
- ・留学の目的 ・将来したいこと
- ・留学するということ
- ・アピールしたいこと ～ACT 編～ ～番外編～
- ・アンケート

資料を作成 A1 用紙 1 枚、A3 用紙 12 枚にまとめ展示。

4. 学生リーダー会 感想文

大阪音楽大学短期大学 2回生 隈崎このみ

私は、リーダー会に入りフォーラムに参加して、学生の強み、弱み、社会人から見た学生など、肌で感じ、これから、どのような社会人へとになっていかなければならないか、いろいろ考えさせられた。とても良い経験が出来た。協力して一つの事をやる。これからの自分につながるよい経験になると思う。

追手門学院大学 2回生 古賀野 莉子

当初は真っ新たな状態からのスタートでしたので主旨もわからず不安でいっぱいでしたが、無事フォーラムを終え安堵しています。他大学の学生の方と関わることができたこと、そのうえひとつのことを成し遂げられたことは貴重な経験となりました。並行して他のプロジェクトを行っていたため積極的な参加ができなかったのですが、学生プロジェクトを通して、社会人の方からのお声掛け、学生の自主的な行動を目の当たりにし、学生主体の企画は社会、そして私たち学生に有益なものであったと実感しました。有り難い経験をさせていただいたことに只只感謝です。

大阪工業大学 2回生 森島 佑

私は、「明日への人材フォーラム」の学生企画に参加した。この企画に参加した理由は、大学の授業であるキャリアデザインの先生に勧められたからである。そして、大学生の仕事が遊ぶことではなく、勉強することであるということを社会に示したいと思った。私は、会場設営部門のリーダーをした。私は、学校の授業で習ったパソコンのソフトを用いて、会場の図面を描いた。自分の学科の専門科目がフォーラムで役に立ったことは嬉しかった。来年も同じ企画があるならば、来賓学生として参加したい。その場で私は、席に述べた「大学生の仕事が遊ぶことではなく、勉強することである」ということを社会に再び示したい。

大阪府立大学 1回生 片山 直也

このプロジェクトを通して得たことは、主に2点あります。

まず、1点目はあいさつ等のコミュニケーションや気配りといった社会人基礎力が社会において、重要なものだと定義づけられてると確認できたことです。私は大阪府立大学でESDという活動に力点を置いて学生生活を送っていますが、ESDでは、社会を円滑に動かすためにはどんなことが必要かを高校生と一緒に考える機会があります。そこで挙げられ

たことは、やはりあいさつや気配りでした。だからこのフォーラムで自分たちがやってきたことは間違いではなかったと確認できたことは、私にとって大きな意味を与えてくれました。

2つ目は、組織内において連絡を密にするに越したことはないとか企画案が通るまでの背景や正確な手順などと言った、将来社会に出てから知ることや大学1回生という早い段階で知ることができたということです。企画段階やフォーラム全体でいろいろな人からアドバイスを頂けたことは、これからの私にとっての大きな財産になりました

以上の二点です。そして、最後にこのプロジェクトを通してご協力を頂いた方々・出会った全ての人に、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

芦屋大学 2回生 岡田 健汰

私は今回このプロジェクトに大学から選んで頂いて本当に感謝しています。なぜなら最高の経験とかけがえのない仲間と出会えたからです。最初はメンバー全員と顔合わせをした時、どこか尖っているような雰囲気正直「この各大学のリーダーの集まりでうまくまとまるのかな」と思っていました。ですが日に日に困難を協力して乗り越えていくと初めには決してしなかった会話や、プライベートの話もするようになりとても馴染めてきました。その辺りから仕事の効率が上がり、コミュニケーションも非常に取りやすくなってきました。そして試験期間とも被り大変な仕事内容で辛いはずが、その中に「楽しい」という感情が芽生えてきました。そう感じる事が出来たのも仲間一人ひとりのおかげであると私は本当に思っているので感謝の気持ちを絶対に忘れません。

今回の活動で私が特に得れたと思うものがあります。それは「相手の意見をよく聞く力」です。私は大学生活やその他のボランティア活動などでも自分から話す機会が多く、その反面聞くということがおろそかになっていた時期があります。ですが学生リーダー会のメンバーは個人の意思が強く、自分の思いを言い合うのでぶつかることがよくありました。それらのおかげといたら少し変なのかもしれませんが、相手が思いをぶつけてきてくれるので本当によく「聞く」ことが出来ました。聞くことによってそこから新しい自分の意見が生まれるということに改めて考えさせられました。話を聞くというのは一般的には当たり前で簡単だと思われる方もさぞ多いと思いますが「相手の考えていることを理解して受け入れよう」という姿勢で聞くということが本当の意味だと私は思えたので、難しいというよりかは深いことだと実感しました。

このメンバーでの学生リーダー会プロジェクトはこれで一旦終了し寂しい気持ちがありますが私は新たな始まりだと感じています。私たち一人ひとりの目標はこの企画を成功させることではなくもっと先にあるからです。今回の活動で得た数えきれない程の経験を忘れないように胸に秘め、各自それぞれ次のステップに進んでいくことが大切だと思いました。私はこれから残りの大学生活で仲間と共に立ち上げたボランティア同好会 Aqua をさら

に発展させ次の世代に託すことと、自分が将来やりたい仕事を見付けていきたいです。この他にもしなければならぬことは山ほどありますが、全てにおいて学生リーダー会で得た経験が活かされてくるはずなのでそれを信じて前進していきます。みなさん本当に色々とお世話になりました。最高にやりがいのあるプロジェクトでした。また次に全員で再会する時はお互い成長した姿を見せ合ひましょう。本当にありがとうございました！！

大阪府立大学 2回生 池田留巳

私は今回、平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」合同フォーラムを企画・運営する学生リーダーに参加することができ、またひとつ様々な面で成長することができたと思います。

私は参加動機が3点あり、①同じ大学の学生だけでなく、他大学の学生と一緒にイベントを行えるから、②企画段階から携わることができるから、③一連のプログラムを通して自分自身成長したいから、でした。フォーラムを無事に終えることができた今、改めて振り返ってみると、これらの動機を十分満たす程、実りのある2ヶ月半だったと思います。

各大学から推薦されてきたメンバーが集まったこの学生リーダー会は、初回の役職決めのおかげから積極的な人が多くて驚いたことは今でも記憶に新しいです。私は今回、全体サブリーダーとして、全体リーダーたちと会議の内容を相談したり、担当の会場設営メンバーと一緒に準備を進めていったりするなど、両方の立場を経験することができ、組織を動かして行く側とそれに応える側、両方のやりがいや大変さを味わうことができました。

前例のない初の試みに意思決定について等、考え、悩むこともありましたが、その分メンバーで一から企画をつくり、実施できたことは達成感を抱くことができたとともに、大きな自信となりました。

また、今回の一連のプログラムを通して出会った同じ大学の学生、他大学の学生、社会人の方々のつながりは本当にかげがえのない宝物です。これからも今回の経験を生かしながら、特に人と人との「つながり」を大切にしながら、今以上に成長していきたいです。

今回、このような機会を与えてくださったことに、感謝したいです。ありがとうございました。今後ともよろしく願います。

大阪工業大学 2回生 副田正樹

私はこの学生リーダー会の統括リーダーを務めさせていただきました。最初のころは様々な不安におしつぶされそうになりました。会議を初めて行なったときは意見の対立でまとめあげることができませんでした。自分の不甲斐なさを感じました。しかし、ここで負けてはならない。そう決心し、リーダーとして何をしなければならぬのか考えました。社会人の方の意見を聞いたり、学生リーダー会のメンバーの意見を聞きました。その成果があつてか次の会議では自分が描いた会議内容に当てはまっていきました。とても嬉しか

ったです。次第にメンバー達も溶け込み合い、良い雰囲気が生まれていきました。幾度となくトラブルは発生しました。正直私一人では解決できない問題ばかりでした。しかし、学生リーダー会のメンバーはさすが各大学の精鋭ということで問題解決にとっても積極的に解してきました。みんなの意識は本当に高いです。Crazy of 向上心です。このような仲間と共に仕事ができただけは誇りに思いますし、本当に幸せでした。この経験を生かして今後も成長していきたいと思います。このような機会を与えてくださりましてとても感謝しています。ありがとうございました。

5. まとめ

1). 学生プロジェクトの反省点

- ・すべての仕事を通して報告、連絡、相談が不十分だった。結果として相手に情報がうまく伝わっていなかったことが多々あった。
- ・企画の決定に時間をかけすぎた。
- ・全体のスケジュール管理がうまくできなかった。
- ・思いやりある行動が取れていないことがあった。雑な仕事の依頼など。
- ・リハーサル不足。
- ・ファシリテーターの勉強不足。
- ・本番のディスカッション中、マイクの声はほとんど聞こえなかった。
- ・誘導係がほとんど機能していなかった。
- ・本番のタイムテーブルは予想していたよりもずれ込んでしまった。
- ・本番終了後の報告会などまで考えていなかった。

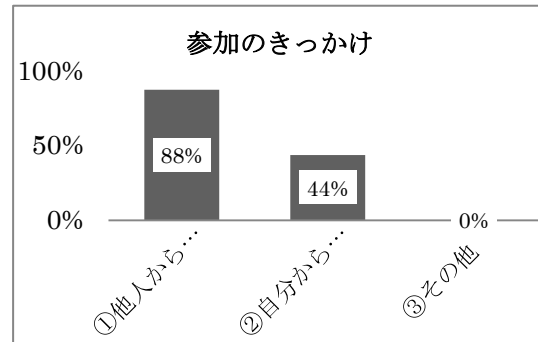
2). 改善策

- ・情報の伝達の重要さをメンバー全員が強い意識共有をする。
- ・拠点として集まれる場所を作り、コミュニケーションをしっかりとれるようにする。
- ・相手の気持ちになって仕事をするをメンバー全員が強い意識共有をする。
- ・本番までのスケジュールを作成するときに、報告書を作ることも最初の段階で頭に入れておく必要がある。
- ・スケジュールやタイムテーブルは詰め込み過ぎず、余裕をもって作成する。
- ・ファシリテーターの練習や本番の事前の打ち合わせなどは時間をかけて行う。

学生リーダー会アンケート結果

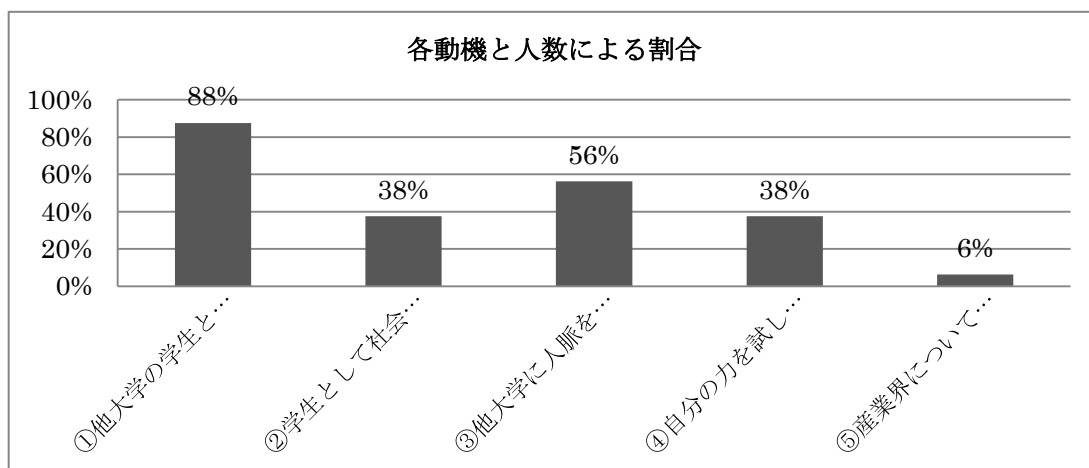
1. 学生リーダー会に参加したきっかけは何ですか。

①他人から推薦を受けた	14	67%
②自分から立候補した	7	33%
③その他	0	0%
合計	21	100%



2. 学生リーダー会に参加しようと思った動機は何ですか。

①他大学の学生と交流し、活動したかったから	14	39%
②学生として社会に何かアピールしたかったから	6	17%
③他大学に人脈を広げたかったから	9	25%
④自分の力を試したかったから	6	17%
⑤産業界について興味があったから	1	3%
合計	36	100%



3. 学生リーダー一会に参加しての感想・反省等

- ・決定事項一つ一つに時間がかかる。これを経験してから、街中などで行われているイベントなどを見ていると、このイベントを行うのにどれだけの人の時間と努力が詰まっているのだろうかと考えるようになった、そうするとこの世の中に存在するあらゆる物が尊いものであると思うようになった。同時に、自分ならより良いものにするためにどうするかを考えるようになった。(大阪府立大学)
- ・短い期間の割に役職をつくりすぎた。
- ・全体サブリーダーの役割と各担当に対しての把握のなさはいただけなかった。
- ・2月以降の参加の人に対してもう少し厳しくあたるべきだ。みんなそれぞれ個人の活動がある中で参加しているので途中参加で頑張りたい、仕事を与えてほしいなどというのは無責任だ
- ・会場の下見があまくて、西日やマイクの音量が聞こえにくいなど当日に不手際なところが あったことは絶対にならないようにしないといけない。(摂南大学)
- ・今回の学生企画は学生の自主性が試されている場であると考えました。学生主体というこの企画で果たして学生とは何か、思いやりとは何か、改めて考えさせられました。そして、自分の行動の一つ一つを考えさせられました。人と人の繋がりは本当に大切です。繋がりを保つための、思いやりとは果たして何でしょうか。そして、人に思いやりを持つには、思いやりを持った行動とれるようになるにはどうしたら、どのような教育が必要なのか考えさせられました。時間と環境、資源、そして思いやり。この4つの観点から様々な思考を重ねることができたのは本当に貴重な経験でした。最後に今回、学生企画を共に運営できたメンバーの方々と指導員である難波美都里様、難波祐美様、色んな事がありましたが、その一つ一つを学びにできました。そして、最後まで運営メンバーとして活動できたのは皆さんの支えがあったからです。本当にありがとうございました。(芦屋大学)
- ・私は今回、平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」合同フォーラムを企画・運営する学生リーダーに参加することができ、またひとつ様々な面で成長することができたと思います。私は参加動機が3点あり、①同じ大学の学生だけでなく、他大学の学生と一緒にイベントを行えるから、②企画段階から携わることができるから、③一連のプログラムを通して自分自身成長したいから、でした。各大学から推薦されてきたメンバーが集まったこの学生リーダー会は、初回の役職決めの際から積極的な人が多くて驚いたことは今でも記憶に新しいです。私は今回、全体サブリーダーとして、全体リーダーたちと会議の内容を相談したり、担当の会場設営メンバーと一緒に準備を進めていったりするなど、両方の立場を経験することができ、組織を動かして行く側とそれに応える側、両方のやりがいや大変さを味わうことができました。前例のない初の試みに意思決定について等、考え、悩むこともありましたが、その分メンバーで一から企画をつくり、実施できたことは達成感を抱くことができたとともに、大きな自信となりました。また、今回の一連のプログラムを通して出会った同じ大学の学生、他大学の学生、社会人の方々のつながりは本当にかげがえのない宝物です。これからも今回の経験を生かしながら、特に人と人の「つながり」を大切にしながら、今以上に成長していきたいです。(大阪府立大学)
- ・自分の力がまだまだ足りていないことがわかった。全体把握能力やリーダーシップ力をもっとつけていきたい。(芦屋大学)
- ・自分が常日頃から思っていたことを社会にぶつけることができたため、非常に有意義でした。参加して良かったです。(大阪工業大学)
- ・まともに何かを企画、運営するのは今回が初めてで、全部が新鮮で全部が勉強になりました。知識や概念として知っていても、実際にその状況に立った時に自分が知っていたことを実践できたことは少なく、改めて「知っている」と「理解している」は違うなど実感しました。準備不足だったり問題想像力が足りなかったりで、結果的に自分が納得するレベルまで持つていくことは出来ませんでした。その納得いかない気持ちも自分にとっては糧になると思えるくらい参加した意義はあると思っています。あと最後に、授業を抜けてでも一回目の顔合わせに出ておけば良かったかなと今はちょっとだけ思います。到底抜け出せる授業では無かったです。(和歌山大学)

- ・色々な大学の人と交流できとても視野が広がりました。また、社会に対する考えを多くの人から聞き、刺激になりました。(大阪音楽大学)
- ・様々な大学のたくさんの方達と共に同じ目的に向かって意見を出し合い、最後には自分たちなりに成功できて楽しかったです。(帝塚山学院大学)
- ・当初は真っ新な状態からのスタートでしたので主旨もわからず不安でいっぱいでしたが、無事フォーラムを終え安堵しています。他大学の学生の方と関わることができたこと、そのうえひとつのことを成し遂げられたことは貴重な経験となりました。並行して他のプロジェクトを行っていたため積極的な参加ができなかったのですが、学生プロジェクトを通して、社会人の方からのお声掛け、学生の自主的な行動を目の当たりにし、学生主体の企画は社会、そして私たち学生に有益なものであったと実感しました。有り難い経験をさせていただいたことに只只感謝です。(追手門学院大学)
- ・各メンバー間にあるモチベーションの差や、目的の違い、考え方の差異などに興味があったのだが、それに関して話し合う時間を取ることができず、またとるために積極的に動くことができず、非常に心残りがある。結果としてリーダー会全体の目的が最後まで具体化せず、内容を深めることができなかった部分が多々あった。参加学生の常識の無さや能力の低さに驚くことがある一方で、非常に高い目的意識をもって日々の大学生活をおくる学生もいることが分かり、うれしく思うとともにやる気を大いに触発された。様々な意味で多くの刺激をもらうことができた。(大手前大学)
- ・とても積極的でいろんなことに対して意識の高い人たちと一緒に一つのことを成し遂げられてとても嬉しかったです。(関西外国語大学)
- ・各大学の精鋭の集まりということでどんな人たちと仕事ができるのかとても楽しみだった。会議を重ねるごとに一つにまとまって行って嬉しかった。報告、連絡、相談の徹底をすることができなかったことが一番の反省点です。(大阪工業大学)
- ・自分に少し自信が持てるようになりました。自分を大切にしないと人の事は考えられないという事を学びました。4日に参加できなかったので、来年度もしあったら頑張りたいです。今回のメンバーと取り組むことができて、自分はものすごく幸せだなと充実した時間を感じることができました。(大手前大学)
- ・本格的に動き始めるまでに自分から行動しなかったことが反省点である。(大阪工業大学)
- ・3ヶ月という短い準備期間で、正直、不安に思うことが多く、イマイチ自分の役割もはっきりしない時期が長かったりしたので、当日を迎えれたときは、感動しました。最初はごちなかつた学生リーダー会も本番では、一致団結して、できたのではないのでしょうか。このような機会はなかなか経験できることではないので、参加できてよかったです。ありがとうございます。(摂南大学)

4. 今後、学生リーダー会をさらに良いものにするにはどうしたら良いと思いますか

- ・連絡の取り方(line, facebook, e-mail 等)を見直す必要があると思う。連絡を密に行う必要がある。会議外の交流でお互いのことを知るべき。もっと時間が欲しかった。(大阪府立大学)
- ・リーダーを2回生や1回生と決めずに何回生でもなれるようにするべきだと思う。
- ・初めの段階で予算やどういうものを業者に頼めるのか、打ち合わせなど含めいつまでに決めておかないといけないかなど事務的な話を統括コーディネーターの方と全体で話し合い把握すべきだと思う。初めの段階で。。。あと、公でのリーダーの発言はもう少し考えないといけないと思った。学生の代表と位置しているので熱過ぎてダメだと思う。学生リーダー会・学生全体の印象を変に悪くしてしまう恐れがある。熱く発言したいならタイミングなど見計らうのも大事だと思う。(摂南大学)
- ・組織形成と連絡体制を一日でも早く作るべきでした。・マニュアルの徹底。・経営資源で

ある人財と情報の活用を真剣に考える

- ・ 講習等、全員に学ぶきっかけや機会があれば、モチベーションを高く維持できました。・ 各大学や各メンバーに自己紹介表のような冊子を作る。
- ・ 初対面だからこそ、互いの理解を深めるための手段を講じる。・ 各メンバーに自分のスケジュール表を作成してもらう。
- ・ 各部門の役割を早い段階で理解してもらう。・ 活動する時期を考える。・ 各大学への配慮の徹底。・ 報告の徹底。(芦屋大学 大阪キャンパス)
- ・ 初回の役割決めでそれぞれの仕事内容を説明し、明確化しておいた方が後々円滑に進んでいくと考える。メンバーがいつでも集まってミーティング等を開くことができるように、中百舌鳥と梅田に自分たちの拠点を設ける。情報共有のためのアドレスであった sneeds は使用しづらかったため、Gmail や Yahoo!メール等、一般的に普段から自分たちが利用しているサイトでアカウントをとって利用した方がよいと考える。グループごとに集まった際の交通費等をもらいやすいように書類を少なくする、あるいはフォーマットを作成しておく。(大阪府立大学)
- ・ プロジェクトの期間を伸ばす。学生一人ひとりを知るために、企画をする前の段階で交流会などを数回開く。連絡の期限や集合時間などをきちんと守ること徹底する。(芦屋大学)
- ・ 企画・運営を一番上に置いて、その下に、広報、会場設営を置くべきだと思った。もう少し前に下見に行きたかった。(大阪工業大学)
- ・ 全体レベルですることはないと思います。とにかく個人がもっとリーダー会に意識を向けることを気を付けていれば、今回よりより良くなると思います。(和歌山大学)
- ・ 意見は個々でしっかりと持っていて、それを発言することは皆できていると思いますが、お互いに相手の意見を聞き、それを受け入れて、さらによいものを生み出すということがもっとできるようになればよいのではないかと感じました。(大阪音楽大学)
- ・ 早い段階での情報共有などを徹底するべきだと思いました。(帝塚山学院大学)
- ・ 会議を欠席しても現状把握できるよう議事録等つくり情報共有(追手門学院大学)
- ・ 組織が活動するための基盤づくりを一番最初にきちんとしておくことに尽きる。連絡方法、組織図、会議の日程といったことから、自分たちの参加しているフォーラムがどのような位置づけで何を目的としているのか、自分たちの権限はどこまで及ぶのか、できることとできないことは何か、などの情報をきちんと把握し、資料として全員に配布すべき。情報の小出しや認識不足で予定が狂うことが多々あった。(大手前大学)
- ・ スタートした当初、学生はほとんどこのフォーラムについてよく分かってなかったもので、初めの意識統一みたいなものをしっかりした方がよいと思いました。(関西外国語大学)
- ・ 報告、連絡、相談を徹底させるために全員が強い意識共有をすべきだと考える。またお互いを思いやる気持ちを大事にすべきである。積極的なコミュニケーションをとることでこの問題は達成されるのではないだろうか。(大阪工業大学)
- ・ グループメンバーが 30 人程いたと思うんですけど、人数が多すぎたと思います。(大手前大学)
- ・ 中盤予算関連のトラブルが続いたので初めにどれだけの予算が学生に充てられているか知らせる(大阪工業大学)
- ・ 最初のオリエンテーションや、そのほか会議の内容など、時間の使い方をもっと考えれば、さらに深く、内容が更に充実した企画が全員で作れるのではないのでしょうか。また、大まかな企画は、全員で考えるべきであり、企画班だけで考えたり、広報班だけで考えたり、班ごとの活動が多く、横のつながりがもう少し密にできたら、もっと学生同士も仲良くなって、よりよいものが作れるのではないのでしょうか。私自身は、今回の学生リーダー会は楽しかったと思うので、あくまで、さらに私の意見が全てではないので、参考程度に読んでいただけると幸いです。(摂南大学)